

令和元年度 第一学期 終業式に臨んで

おはようございます。今年は過ごしやすい六、七月の気候で、明日から夏休みといわれてもなかなか実感がわきませんが、本日で令和元年度の第一学期が終わろうとしています。

昨日は成績会議では皆さんの学習や生活の様子について、先生方からいろいろとお話がありました。頑張っている生徒がたくさんいる反面、学習や生活面において反省、自覚が必要な生徒もいます。

本日、成績表が配られると思いますが、ここに至る自分の生活を今一度思い返し、今後のより高い成果に向かって努力を続けてもらいたいと思います。

さてこの時期、特に三年生は将来の進路について、方向を決めていく必要があります。就職を希望する者はもとより、進学希望者も決断しないといけない時期が迫っています。いろいろと迷ったり悩んだりしてる人もいると思いますが、自分の将来と適正をよく考えて、進めていってください。

今さらですが、私自身の進路の決定はどうだったのかと考えてみました。今日はそれを含めて、お話ししてみます。立派な話ではなく、むしろ恥をさらす感じのお話しにもなるかもしれません。

さて、夢を持つ、これは若者に対してよく言われることです。私も入学式の式辞などで、この言葉を皆さんに伝えたこともあります。

将来の夢を持つことは、それに向かって努力をしようとする自らの動機、モチベーションを高めます。夢、すなわち佳き未来を思い描くことは頑張ろうという行動のエネルギーとなります。

私自身はどうだったのでしょうか。幼い頃を思い出してみました。小学生の頃は宇宙飛行士になろうと思いました。世界ではじめて宇宙空間を飛行したソビエトのガガーリンの言葉、「地球は青かった」それが本にのっていました。自分も宇宙から青い地球をこの目で見たいと思いました。ちょうどアメリカの宇宙船アポロ十一号が

月に着陸し、人類が初めて月に降り立ったのもこの頃でした。現代でも、宇宙空間から地球を眺めることができるのは、選抜された一握りの優秀な人材だけです。それは本当に根拠のない夢であり、実現する方法も分からず、努力をしようとする気持ちも起こらず、やがて簡単に消えていきました。

小学校の後半からは、オーケストラの指揮者になりたいと思っていました。子どもは物事を本当に簡単に考えるものです。そのために必要な能力、環境、経済力などまったく思いも至らない訳です。千葉県の子供生活で、家にはお金もなく、楽器もなく、家庭のバックアップも期待できません。そもそも本屋も電車の駅も教えてくれる先生もない田舎で、音楽を学ぶ環境がほぼありません。またまた夢は夢で終わります。今になって思えば、そもそも自分にその才能がないわけで、夢を追いつけなくてよかったと思っています。

時は移って、高校生一年生の時です。その頃の私は身体が弱く、病気を患って腹部の手術をしました。入院中に見る外科の執刀医の先生がとても頼もしくて、自分も医者になりたいと強く思いました。当時の私立大学の医学部は今より学費が高くて、六年間で五千万円くらいの出費が見込まれました。我が家の環境ではまったく手が届かない額です。しかし国立大学の医学部なら学費が払えます。当時の国立大学の授業料はどの学部でも年間十四万円くらいでした。六年間でも九十万円に満たない額で、五千万から比べればただ同然です。それ以外に道はありません。しかし国立大医学部はどこも最難関です。モチベーションを上げて勉強を頑張りました。相当に無理をして一年半ほど頑張ったのですが、どうも結果が思わしくいきません。自分の能力を超えて無理をしていたようで、やがて体調を壊し、何もやる気がなくなりました。深刻なスランプ状態に陥りました。教科書や参考書を見るのもいやになり、勉強をほとんどできない日々が半年近く続きました。高校三年生にとっては致命的な半年のブランクです。すでに医学部どころではなく、通常の理系学部を受験しましたが、その年はどこにも受かりませんでした。もしかしてと思ったその夢はやはり届かなかったわけです。

一年間の浪人生活の後に、ある地方の大学の理系学部に入学しました。どこか遠くに行きたいというのもその大学を決めた動機でもありました。

さてその後、大学四年生になれば将来に向けて自分のスタンスを決めないといけません。更にその上の学校を目指す友人もいましたが、私は早く仕事に就こうと思いました。社会と断絶された大学生活は居心地がよく、これ以上いると人間が墮落すると感じたからです。

ここで迷いました。民間企業か教員かをです。教員は以前から考えていた仕事です。教えることは好きでしたし、周りからも向いている仕事だと言われていました。その当時、理科系に関しては大変な人不足でした。特にコンピューター関係会社では、理科系の学生であれば誰でも来てほしいという様子でした。だいたい、入社試験を受ける前から「合格」確定です。

ある大手コンピューター会社の採用試験を受けました。前日は都内ホテルの宿泊が付いて、帰りには交通費として往復の飛行機代が渡されるなど手厚いもてなしでした。役員面接があるということで、何人かでエレベーターに乗せられ、役員室のある階につきました。エレベーターの扉が開くと、そのフロアだけ様子が異なり、廊下の床がすべて赤いジュータンが張られていました。今までの階とは全く異なる綺麗な内装でした。面接は無事に終わりました。飛行機と高速バスを乗り継いで下宿に帰り、自分の将来について考えました。何を思ったのか・・・「自分はあの赤いジュータンの階の人間にはなれないな」・・・そう思いました。弱気だと責められるかもしれませんが、自分の力は自分で分かっていました。それは大変に大きな会社でしたので、その中での自分の立ち位置が見えた気がして、悩んだあげくに採用を辞退することにしました。

その七月には教員採用試験を受けていましたが、その結果はまだ出ていませぬので、自分の進路は宙ぶらりんになりました。

さて、私は今ここに、千葉県の教員として皆さんの前に立っていますので、その後なんとか教員試験の合格をもらうことができたということです。

思えば大学に入学してからは夢を追うというよりは、現実の中で

達成可能な目標、努力すれば手が届くものを追いかけたと思います。夢は夢として、あるいは夢は叶わなくて、やがては現実として手の届く選択をしていく、これが大人になるということなのかもしれません。

ここで皆さんについてです。一年生、二年生はやはり夢を持って追いつけてください。三年生の進学希望の人もまだ夢を追えますね。さて、三年生の就職希望者はこの夏から、現実の世界に目を向けることになります。手にした現実が同時にあなたの夢見ていたものであれば、あなたは幸せな人間です。いずれにしても、自分の持ち味や興味のあることの中から、仕事を探し出せばと願っています。

ここで再び夢の話に戻ります。夢と仕事を結びつけようとする、現実とのギャップに悩むことがあります。ある者にとっては、仕事の決定が夢の終わりを意味するかもしれません。ですから私のが皆さんにお勧めすることは、仕事とは関係のない夢を持ち続けることです。

仕事は仕事、夢は仕事以外の別のところで見つけるといいのです。それならば、夢をずっと追いつける事ができます。そういう私も、今、仕事に関係のない夢を持っています。

以上、まとまりのないお話ではありましたが、皆さんにとって、何か参考になればと思っています。

さて、夏休みが来ます。暑さや誘惑、怠け心に負けず、事故のないように、また健康に気をつけて生活してください。

最後になりますが三年生の中には明後日に行われる、参議院議員選挙の投票権を持っている人がいます。政治の世界は実際に投票所に足を運ぶ人たちの意見を尊重します。あなたたち将来を背負う若い世代にふさわしい政治の実現のために、ぜひその一票を使ってください。

それはでは、九月二日にまた会いましょう。

令和元年七月一九日